

## 令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和6年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

#### 4 本校の実施状況

第4学年	国語	72人	算数	73人	理科	74人
------	----	-----	----	-----	----	-----

第5学年	国語	81人	算数	81人	理科	81人
------	----	-----	----	-----	----	-----

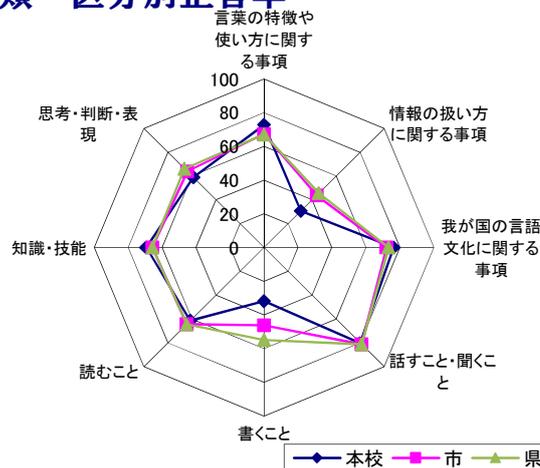
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	72.8	67.4	67.1
	情報の扱いに関する事項	30.6	43.8	45.7
	我が国の言語文化に関する事項	76.4	72.1	73.4
	話すこと・聞くこと	80.2	81.2	81.2
	書くこと	31.9	46.2	54.9
	読むこと	61.5	64.3	64.5
観点	知識・技能	69.3	65.7	65.7
	思考・判断・表現	58.8	64.0	66.3



## ★指導の工夫と改善

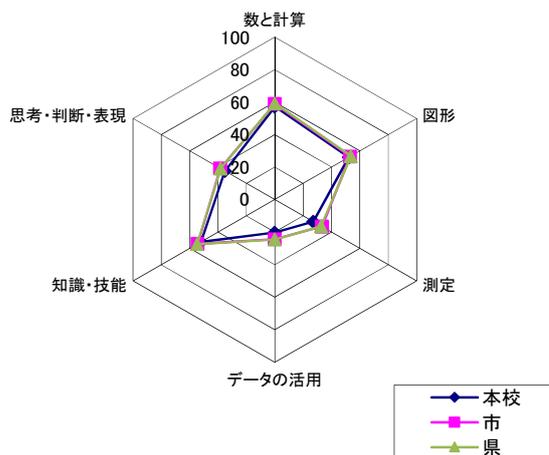
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○言葉の特徴や使いに関する事項の正答率は72.8%で、県より5.7ポイント上回っている。 ○漢字の読み・書きでは、全て県の正答率を上回っている。 ●文の中における主語と述語の正しい組み合わせを答える問題では、県の正答率を3.6ポイント下回っている。	・漢字の読み・書きについては、国語だけでなく、どの教科においても学習の積み重ねを図り、さらなる定着を目指す。 ・文章を読む際に、主語と述語がどれなのかを日頃から問い掛けるようにし、主語と述語の正しい関係への理解を深めていく。
情報の扱いに関する事項	●情報の扱いに関する事項の正答率は30.6%で、県より15.1ポイント下回っている。 ●国語辞典の使い方を理解し、例文で用いられた言葉の意味として適したものを選ぶ問題では、県の正答率を下回っている。	・言葉の意味を調べる活動を多く取り入れ、国語辞書の使い方に慣れ親しむとともに、その言葉を用いて簡単な文を作らせるなどして語彙力の伸長と定着を図る。
我が国の言語文化に関する事項	○我が国の言語文化に関する事項の正答率は76.4%で、県より3ポイント上回っている。 ○漢字のへんとつくりを正しく組み合わせて既習の漢字をつかって問いに答える問題では、県の正答率を上回っている。	・進出漢字を扱う際は、引き続きへんやつくりに着目して学習を進める。また、文字の成り立ちなどにも触れて、児童の興味関心が高まるよう指導する。
話すこと・聞くこと	●話すこと・聞くことに関する事項の正答率は80.2%で、県より1ポイント下回った。 ○話し手が話した内容を答える問題や、参加者の発言から司会者の発言を答える問題の正答率は、90.3%と79.2%で、県より3ポイントほど上回った。 ●相手に伝わるように、理由を挙げながら自分の考えを書いて答える問題では、正答率が76.4%で、県より6.9ポイント下回っている。	・司会者と参加者の役割を理解させ、教科の垣根を超えて様々なパターンでの話し合い活動を多く取り入れるようにし、円滑な話し合いの仕方が身に付くよう指導する。役割はその都度交代するようにし、それぞれの立場で必要なスキルが伸ばせるようにする。 ・話し合い活動のあとに振り返りを行い、どう話したら相手に伝わりやすいかを共有して、スキルの向上を目指す。 ・円滑な話し合いにするためのポイントを見える化し、困難さを感じる児童への手立てとする。
書くこと	●書くことに関する事項の正答率は31.9%で、県よりも23ポイント下回った。 ●指定された長さや構成で自分の考えを記述する問題では、4つの条件全てで県の平均正答率を20ポイント以上下回っており、課題が見られる。 ●「書くこと」の無回答率が20.8%で、県よりも5.1ポイント上回っている。	・文章の型を決めて簡単な作文練習をさせたり、テーマを決めて短い紹介文や物語文などを書かせたりして、書くことへの抵抗感が少しでも無くせるよう指導をする。 ・よい表現や、分かりやすくとめられた文章があれば紹介し、称賛するとともに、互いに文章を読み合せて推敲し、よりよい文章にしていくことのよさや楽しさが味わえるようにする。 ・苦手さを感じる児童には、簡単な構成メモを書かせたり、教師が模範を示したりして、書く活動に意欲的に取り組めるようにする。
読むこと	●読むことに関する事項の正答率は61.5%で、県よりも3ポイント下回っている。 ○登場人物の行動の理由を叙述から読み取る問題では、県の正答率よりも11.8ポイント上回っている。 ●段落の内容ごとのまとまりを正しく分ける問題では、県の正答率よりも10.1ポイント下回っている。	・物語文を読む際は、段落と段落の関係に注目しながら読むよう日頃から指導し、場面分けを行うなどして意識付けを図る。 ・物語の場面や登場人物の気持ちの変化は、叙述に沿って読み取るよう普通の授業から実践して定着を図る。

# 宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	57.2	58.9	59.2
	図形	52.1	53.0	53.7
	測定	27.1	33.1	32.6
	データの活用	20.2	24.4	24.6
観点	知識・技能	52.1	54.3	54.7
	思考・判断・表現	35.1	38.5	38.3



## ★指導の工夫と改善

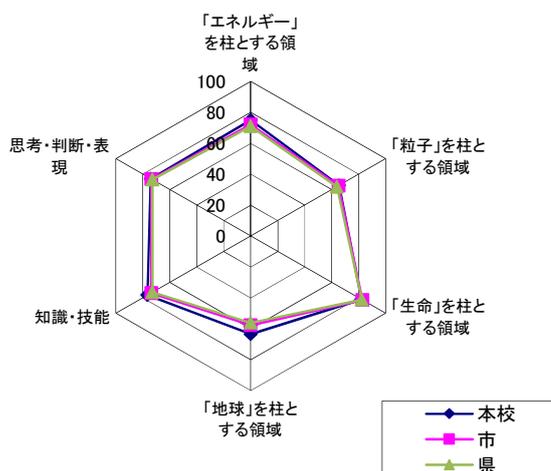
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○同分母の分数のかけ算について、計算のしかたを説明する問題の正答率は43.8%で、県より7.1ポイント上回っている。</p> <p>●平均正答率は57.2%で、県より2.0ポイント下回っている。</p> <p>●数直線で、目盛りが表す数の大きさを分数で答える問題の正答率は43.8%で、県より11.9ポイント下回っている。</p>	<p>・朝の学習や授業、AIドリル等を利用し、年間を通して継続的に計算練習に繰り返し取り組み、基礎的・基本的内容のさらなる定着を図る。</p> <p>・数直線の見方を確認し、様々な大きさの分数を数直線を用いて表したり、互いに説明し合ったりする活動を取り入れる。</p>
図形	<p>○二等辺三角形になる図を選ぶ問題の正答率は72.6%で、県より4.5ポイント上回っている。</p> <p>●平均正答率は52.1%で、県より1.6ポイント下回っている。</p> <p>●球の半径を利用して箱のたての長さを答える問題の正答率は46.6%で、県より6.3ポイント下回っている。</p>	<p>・図形を学ぶ際には、具体物を用いて指導し、図形の特徴を理解させ、すべての児童が視覚的に理解しやすいような支援を行っていく。</p> <p>・具体物を平面に変換して考える問題を繰り返し行い、定着を図る。</p>
測定	<p>○前後の時刻や時間の経過から、途中の時間を求める問題の正答率は39.7%で、県より7.0ポイント上回っている。</p> <p>●平均正答率は27.1%で、県より5.5ポイント下回っている。</p> <p>●重さが同じになる組み合わせとして、正しいものを選ぶ問題の正答率は6.9%で、県より19.9ポイント下回っている。</p>	<p>・測定単元の授業の中で、既習事項を確認したり、実際に具体物を使用したりして、復習ができるような授業展開を行う。</p> <p>・長さや重さの単位について、朝の学習や宿題等で、定期的に復習に取り組むようにし、基礎・基本の確実な定着を図る。</p>
データの活用	<p>○示されたテーマについて、適切なグラフを選び、選んだわけを説明する問題の正答率は12.3%で、県より1.7ポイント上回っている。</p> <p>●平均正答率は20.2%で、県より4.4ポイント下回っている。</p> <p>●棒グラフを読み取り、二番目に多い落とし物の種類を答える問題の正答率は37.0%で、県より12.5ポイント下回っている。</p>	<p>・日頃から、問題文や資料を読み取り、読み取ったことを正しく説明する場を増やしていくようにする。</p> <p>・国語や社会科、総合的な学習の時間等において、グラフや表を用いて表現したり互いに説明したりする活動を積極的に取り入れるなど、他教科との関連を図る。</p>

# 宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【理科】分類・区別別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	75.0	72.1	71.0
	「粒子」を柱とする領域	65.5	65.2	63.9
	「生命」を柱とする領域	82.0	82.8	82.4
	「地球」を柱とする領域	63.5	57.7	56.2
観点	知識・技能	76.6	73.8	72.8
	思考・判断・表現	74.2	73.7	72.8



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は75.0%で、県より4ポイント上回っている。</p> <p>○「音を止める方法とトライアングルのふるえについて関連付けて考えることができるかどうかをみる」問題の正答率は87.8%で、県よりも4ポイント上回っている。</p> <p>●「実験の結果から回路の見えない部分について推測できるかどうかをみる」問題の正答率は66.2%で、県よりも1.2ポイント下回っている。</p>	<p>・「回路」について復習し、科学的な見方・考え方を働かせられるよう日頃から科学的な事象に目を向けるよう指導する。</p> <p>・今後も学習したことを日常生活に結び付けながら考えられるよう、授業の中でも意識していきたい。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は65.5%で、県よりも1.6ポイント上回っている。</p> <p>○「形を変えても重さはかわらないことについて理解しているかどうかをみる」問題の正答率は91.9%で、県よりも5.2ポイント上回っている。</p> <p>●「同じ体積でもものの種類によって重さがちがうことについて表と関連付けて考えることができるかどうかをみる」問題の正答率は39.2%で、県よりも1.9ポイント下回っている。</p>	<p>・「ものの体積」について復習し更なる知識・技能の習得を図る。</p> <p>・問題場面に合った実験に取り組み、知識や技能を応用して考えることができるようにする。</p> <p>・実験するとき、その目的や手順、結果をしっかりと押さえた考察ができるように今後も支援する。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○「昆虫のすみかについて理解しているかどうかをみる」問題の正答率は98.7%で、県よりも2.8ポイント上回っている。</p> <p>●平均正答率は82.0%で、県よりも0.4ポイント下回っている。</p> <p>●「昆虫の体のつくりについて理解しているかどうかをみる」問題の正答率は79.4%で、県よりも8.4ポイント下回っている。</p>	<p>・昆虫や自然の観察の際には、観察のポイントを事前に提示し、自然現象について興味・関心を高めてから、活動に取り組めるようにする。</p> <p>・友達と説明し合う機会を多く持ったり言語活動を充実させたりしていくようにする。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は63.5%で、県よりも7.3ポイント上回っている。</p> <p>○「方位磁針の使い方を身に付けているかどうかをみる」問題の正答率は55.4%で、県よりも11.7ポイント上回っている。</p> <p>○「太陽が動く方位を理解しているかどうかをみる」問題の正答率は63.5%で、県よりも11.3ポイント上回っている。</p>	<p>・「太陽とかげ」の内容について、日常生活と関連付けて、知識・技能の更なる習得を図る。</p> <p>・各単元を通して、学習内容を日常生活に結び付けながら学習を進め、自然の現象について正しく理解できるようにする。</p>

## 宇都宮市立横川中央小学校 第4学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「学校の宿題は、やりたくなる内容だ。」の肯定割合は72.8%で県より8.1ポイント上回っている。「学校の宿題は、自分のためになっている。」の肯定割合は100%で県より4.1%上回っている。児童が宿題の意義を感じながら意欲的に取り組んでいる様子がうかがえる。今後も家庭での学習の意識向上を図るため、宿題の形態を考えながら実施していく。

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている。」「先生は学習のことについてほめてくれる。」「学校のきまりを守っている。」「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる。」の肯定割合はどれも90.0%以上で、県より2.8ポイント上回っている。学校の授業だけでなく、学級の中できまりを守って自分の仕事に取り組んだり、前向きな気持ちで学習に向かったりすることで、楽しく充実した学校生活をおくることができるよう支援する。

○「次の教科などの授業の内容はよく分かりますか。」の質問では、国語、社会、算数、理科の学習における肯定割合が、すべて90.0%以上で県よりも上回っている。4教科の学習の内容を好きな児童が多く、授業の内容についてもよく理解していることが分かる。

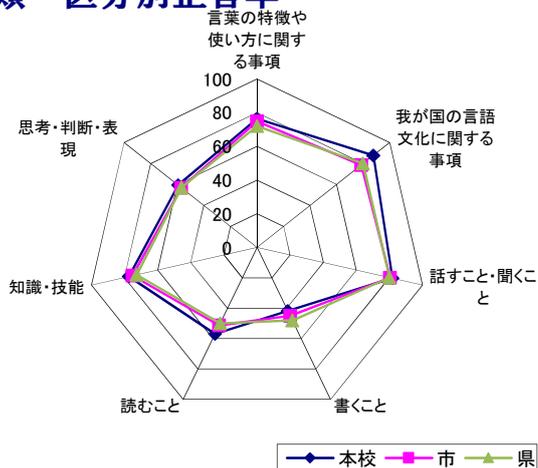
●「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習じゅくや家庭教師もふくむ)。」の肯定割合は3.9%で、県よりも4.2ポイント下回っている。学校が休みの日にはそれほど意欲的に勉強に取り組まない児童が多いことが分かる。休日であっても毎日続けて勉強することの大切さを家庭に呼びかけ、保護者とも連携・協力しながら土曜日や日曜日の学習意欲の向上を図っていきたい。

●「漢字の読み方や言葉の意味が分からないときは、辞書を使って調べている。」の肯定割合は62.4%で、県よりも5.5ポイント下回っている。授業で辞書の使い方について学習する際は学校の辞書を使うが、普段の学校生活や家庭生活では辞書を手に取って調べる児童が少ないことが分かる。校内では各学級に置いてある辞書を活用し、分からない漢字や言葉を積極的に調べるよう呼びかけたり、教師自身が辞書を活用する場面を見せるなど、日常生活に辞書の使用を取り入れていく必要がある。

# 宇都宮市立横川中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	76.4	74.8	72.0
	我が国の言語文化に関する事項	87.7	78.6	79.9
	話すこと・聞くこと	81.8	80.4	80.0
	書くこと	41.7	45.1	48.0
	読むこと	56.9	51.3	50.0
観点	知識・技能	77.4	75.2	72.8
	思考・判断・表現	59.3	57.0	57.0



## ★指導の工夫と改善

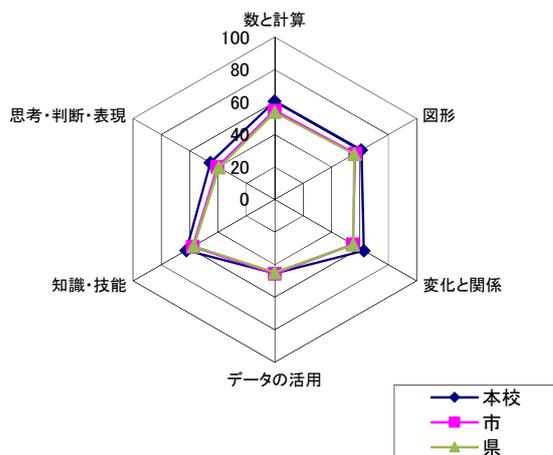
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○言葉の特徴や使い方にに関する事項の平均正答率は76.4%で、県を4.4ポイント上回っている。 ●第4学年に配当されている漢字を正しく書いているかどうかを問う問題(送り仮名あり)の正答率は50.6%で、県を3.9ポイント下回っている。また、送り仮名の誤答は30.9%と、県を10.9ポイント下回っている。 ●文中における修飾と被修飾の関係を捉えることができるかを問う問題の正答率は6.2%で、県を8.9ポイント下回っており、70.2%が誤答している。	・送り仮名のある漢字については、繰り返し、正しく練習をさせ、定着を図る。 ・連用修飾語の働きについては、様々な文例を用いて、再度理解させるようにする。
情報の扱い方にに関する事項	出題なし	
我が国の言語文化に関する事項	○我が国の言語文化に関する事項の平均正答率は87.7%で、県を7.8ポイント上回っている。	・慣用句の意味を確認したり、短文を作ったりしながら理解を促し、さらなる習熟を図る。
話すこと・聞くこと	○話すこと・聞くこと平均正答率は81.8%で、県を1.8ポイント上回っている。 ●話し合いの内容を聞き取り、聞き取った考えをまとめることができるかを問う問題の正答率は、69.1%で県を4.3ポイント上回っているが、無回答が6.2%を占める。	・聞くことに重点を置いた指導を、今後も継続して行う。また、話すことについては、自分の意見に対する理由や根拠を明確にできるよう、日々の授業で積み重ねていく。
書くこと	●書くこと平均正答率は41.7%で、県を6.3ポイント下回っている。 ●指定された長さで文章を書くことができるかをみる問題の正答率は49.4%で、県を8ポイント下回っている。また、無回答は23.5%である。	・文章を書くことに対し、全く書かなかった児童が23.5%いることに重きを置き、「書かなかった」又は「書けなかった」理由を探りながら、書くことへの指導を行う。 ・2段階構成で書くことや事実と意見を分けて書くなど、いくつかの条件を与えて、それらを満たして書く学習を取り入れる。
読むこと	○読むこと平均正答率は56.9%で、県を6.9ポイント上回っている。 ○登場人物の気持ちの変化について、具体的に想像することができるかをみる問題の正答率は50.6%で、県を15.8ポイント上回っている。 ●叙述を基に段落相互の関係を捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は38.3%で、県を4.2ポイント上回っているが、3つの選択肢に同程度の回答人数が見られる。	・説明文の学習の際に、段落の構成に重点を置いた学習を取り入れる。大まかな内容の把握だけに留まらず、根拠を明らかにしながら構成を考えられるようにする。

# 宇都宮市立横川中央小学校 第5学年【算数】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.5	54.9	53.7
	図形	60.9	56.6	56.1
	変化と関係	62.7	55.1	55.2
	データの活用	45.4	45.5	44.8
観点	知識・技能	62.4	57.8	57.2
	思考・判断・表現	45.3	40.6	39.5



## ★指導の工夫と改善

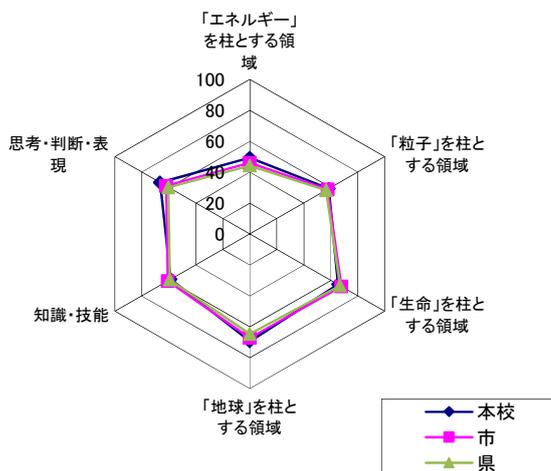
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>○数と計算の平均正答率は、60.5%で、県の平均を6.8ポイント上回っている。</p> <p>○少数第一位÷整数=少数第二位の計算をする問題の正答率は63.0%で、県より12.7ポイント上回っている。</p> <p>●27は0.27の何倍かを選ぶ問題の正答率は67.9%で1.7ポイント下回っている。</p>	<p>・基礎的な計算の定着を図るために、朝の学習、家庭学習などを通して、計算問題に取り組み、習熟を図るようにしていく。</p> <p>・スマイルネクストを活用して隙間時間なども問題に取り組みさせる。</p>
図形	<p>○図形の平均正答率は、60.9%で、県の平均を4.8ポイント上回っている。</p> <p>○立体の展開図として正しくないものを選ぶ問題の正答率は77.8%で、県より7.4ポイント上回っている。</p> <p>○三角定規を利用して、正しい角度を選ぶ問題の正答率は56.8%で、県より8.3ポイント上回っている。</p>	<p>・基礎的な学習はこれからも続けていき、コンパスや定規、分度器などを使って作図をしたり角度を求めたりする問題にも対応できるよう応用問題に取り組み、理解を深める。</p>
変化と関係	<p>○変化と関係の平均正答率は、62.7%で、県の平均を7.5ポイント上回っている。</p> <p>○伴って変わる2つの数量の関係を式に表す問題の正答率は、50.6%で、7.8ポイント上回っている。</p> <p>○割合を使った比べ方について説明する問題の正答率は、39.5%で、10.1ポイント上回っている。</p>	<p>・日頃から、問題文や資料を読み取り、読み取ったことを正しく説明する場を増やしていくようにする。</p> <p>・変化がわかりやすいようにグラフを用いたり、互いにどのように変化しているのか説明をし合ったりする活動を取り入れる。</p>
データの活用	<p>○データの活用の平均正答率は、45.4%で、県の平均を0.6ポイント上回っている。</p> <p>○折れ線グラフを読み取り、気温差が最も大きい月を答える問題の正答率は、61.7%で、6ポイント上回っている。</p> <p>●グラフから読み取った数を示し、変化の様子を説明する問題の正答率は県や市町全体を上回っているが、正答率が低い。</p>	<p>・多くの情報の中から、必要な情報だけを取捨選択したり、資料を読み取る力を身に付けるために、根拠を明らかにして説明したりする活動を取り入れていく。</p> <p>・日常生活や社会などの他教科と結び付け、活用しながらより実践的な問題を取り入れる。</p>

# 宇都宮市立横川中央小学校 第5学年【理科】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	49.4	46.0	44.3
	「粒子」を柱とする領域	58.5	57.7	56.6
	「生命」を柱とする領域	65.4	67.8	66.9
	「地球」を柱とする領域	69.4	67.2	64.6
観点	知識・技能	58.6	60.8	59.2
	思考・判断・表現	66.5	62.1	60.4



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	<p>○平均正答率は49.4%で、県平均を5.1ポイント上回った。</p> <p>○「乾電池のつなぎ方とその名称を理解している」では、65.4%で県平均を4.9ポイント上回った。</p> <p>●「簡易検流計の針のふれ方からわかることを答える」の正答率は27.2%で県平均を3.0ポイント下回った。</p>	<p>・実験や日常生活の中で経験した知識については定着している。針のふれ具合が電流の大きさを表すことは理解できているが、針のふれる向きが電流の向きを表すことを理解できていないため、誤答や無回答が多かった。個別の実験結果から分かったことを比較したり、それぞれの結果を関連付けて説明したりすることで、多様な問題に適切に答えられるようにしていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○平均正答率は58.5%で、県平均を1.9ポイント上回った。</p> <p>○「とじこめた空気と水の性質を身近な出来事と関連付けることができる」では、71.6%で県平均を9.3ポイント、「実験の結果からあたためたときの金属と空気の体積の変化を比較できる」では、79.0%で県平均を8.1ポイント上回った。</p> <p>●「仮説が正しかった場合の実験結果を選ぶ」では、正答率29.6%で県平均をポイントを3.3ポイント下回った。</p>	<p>・「水の温まり方」について調べる際に、一つのやり方だけでなく、多様な方法を取り入れて体験させていく。</p> <p>・実験を行う際には、目的や手順を確認するとともに、お互いの立てた仮説と結果の見通しを説明し合う機会を多く持つことで、言語活動を充実させていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>●平均正答率は65.4%で、県平均を1.5ポイント下回った。</p> <p>○「骨と関節について理解している」の正答率は、86.4%で県平均を5.4ポイント、「筋肉のはたらきについて考えることができる。」では、正答率は、66.7%で県平均を4.5ポイント上回った。</p> <p>●「季節ごとの動物の活動について理解している」では、正答率66.7%で県平均を6.9ポイント、「夏の植物の成長について理解している」では、72.8%で、県平均を7.7ポイント下回った。</p>	<p>・「人の体のつくりと運動」の知識は身につけているが、「季節と生き物」についての知識の定着が不十分だった。身近な植物や動物の観察・記録を計画的に実施し、蓄積した記録を整理することで、季節ごとの自然事象の変化への理解を深められるようにしていく。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○平均正答率は69.4%で、県平均を2.2ポイント上回った。</p> <p>○「天気と一日の気温の変化の関係について記述できる」の正答率は、76.5%で県平均を15.5ポイント、上回った。</p> <p>●「月の動き方を理解している」では、正答率56.8%で県平均を9.4ポイント下回った。</p>	<p>・「天気の様子」や「雨水の行方と地面の様子」など、校内で実験した単元の知識・技能は定着している。「月と星」など、授業以外での観察も必要な単元では、映像試料を活用するとともに、家庭と連携し天体観測などの体験を増やすことで、月の動きについての理解を深められるようにしていく。</p>

## 宇都宮市立横川中央小学校 第5学年 児童質問調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○宿題に関する項目で「家で学校の宿題をしている」の肯定的回答の割合は98.8%で、県を2.9ポイント上回り、家庭で取り組めていることが分かる。また、「学校の宿題は、自分のためになっている」の肯定的回答の割合は96.4%で、県を10ポイント上回っている。今後も継続して行えるよう、宿題の内容を検討しながら取り組ませたい。

○授業に関する項目で「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」の肯定的回答の割合は95.2%で、県を2.4ポイント上回っている。今後も、めあてに向かって分かる授業を行っていく。また、「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の肯定的回答の割合は92.8%で、県とほぼ同等、「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができている」の肯定的回答の割合は97.6%で、こちらも県と同等であり、割合が高い。互いを尊重し、互いの意見を取り入れることは、自分の意見と比較して考えるために大切なことである。今後も「聞くこと」に対する意識化を図っていきたい。

○「将来の夢や目標をもっている」の肯定的回答の割合は95.2%で、県を6.2ポイント上回り、「家の人と将来のことについて話すことがある」の肯定的回答の割合は74.4%で、県を7.2ポイント上回っている。また、「自分は家族の大切な一員だと思う」の肯定的回答の割合は94%と高い。安心して過ごせる温かい家庭による支えを基盤として、自己肯定感を高められる環境にある児童が多いことが分かる。

●「できるだけ自分一人の力で課題を解決しようとしている」の肯定的回答の割合は85.6%であるのに対し、「難しい問題に出会うと、よりやる気が出る」の肯定的回答の割合は54.2%と低い。課題解決に向けて、一人の力に限らず、友達と共に解決していけるような授業を仕組み、解決できたときの達成感や喜びを味わわせたい。

●平日における学習時間に関する項目で、「学校の授業時間以外に、普段一日あたりどれくらいの時間勉強しますか」で、1時間以下と答えた割合は50.5%と、全体のおよそ半分である。宿題をする習慣はほとんどの児童で定着が図られているが、今後は自主学習の内容にも触れながら、自分にとって必要な学習へと取り組んでいけるよう支援をしていきたい。

●学習についての項目で「国語の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答の割合は92.7%、「算数の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的回答の割合は92.8%と高いが、「国語の学習は好きですか」の肯定的回答の割合は66.2%、「算数の学習は好きですか」の肯定的回答の割合は72.3%と下がっている。特に国語では、26.5ポイントも下がっている。学習内容を理解できていれば、「好き」に繋がるのではないかと考えるが、このポイント差に目を向け、児童が主体的・意欲的に学習に取り組めるような授業を行っていききたい。

## 宇都宮市立横川中央小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
各教科における基礎・基本の確実な定着	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の聞き方や発表の仕方、ノートの取り方など基本的な学習態度や学習機能を身に付けさせる指導。</li> <li>・一人一台端末の計画的・積極的・効果的な活用と工夫・改善。</li> <li>・朝の学習における漢字・言葉・計算学習の実施。</li> </ul>	4年生の理科と、5年生の3教科については、平均正答率がほとんどの領域で、県の平均を上回った。4年生の国語と算数において、平均正答率が県の平均を下回る領域が多く見られた。
自分の思いや考えを表現できるような学習指導の工夫と改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校課題「主体的に考え、学び合う児童の育成」のための授業改善。</li> <li>・多様な考えに触れ、互いの良さを生かしながら協働して課題解決に取り組めるような学び合いの場の工夫。</li> </ul>	「クラスの友達との間で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」と答えた児童の割合は、4年生、5年生ともに、県の肯定割合を上回っている。
豊かな心を育む表現力の向上を目指す読書指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校一斉読書の実施。(月、金曜日)</li> <li>・チャレンジブックの実施。</li> <li>・読書週間の実施。(10月)</li> <li>・読み聞かせボランティアを活用した読み聞かせの実施。(月1回通年)</li> </ul>	「授業時間以外にどれくらい読書を読みますか」の問いに対して、4年生では「全くしない」、5年生では「10分以上30分以内」と答えた児童の割合が最も高かった。1か月の読書量では、5年生は、5冊以上読んでいる割合が県全体をわずかに上回る結果となった。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
国語の「書くこと」の4年生の平均正答率は41.7%で県よりも6.9ポイント、4年生の平均正答率は31.9%で、県よりも23ポイントも下回った。「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい。」の質問に対して、「はい、または、どちらかといえば、はい」と答えた児童の割合は、4年生は70.2%で県に比べて5.7ポイント上回っている。	各教科・領域の学習の中で、自分の意見や考えをもち、相手に伝える機会を計画的に設ける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書くことへの抵抗感を軽減するための取組として、自分の考えを言語化する活動を取り入れる。</li> <li>・発表や説明をしたりする学習では、理由や根拠を明確にする。</li> <li>・目的意識をもって学習に取り組むようめあてを提示し、授業の終末では学習を振り返るようにする。</li> <li>・友達の発表を聞くときには、自分の考えとの違いを比べたり、気付きを大切にしたりする。</li> </ul>